

改訂版

学習の3段階理論とは

—理解・定着・応用で学力を飛躍的に向上させよう—



開倫塾

塾長 林 明夫

2011年12月6日(火)

2010年12月28日午前9:20～9:30 CRT 両毛支局にて収録

「理解」とは何かを考える

－「学習の3段階理論」で学力を身につけよう(1)－

開倫塾

塾長 林 明夫

* CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

1. はじめに

明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今年も1月1日から「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今回は、新年第1回目の放送であり、また、本年3月には「開倫塾の時間」の放送開始から25年目を迎えますので、「効果の上がる勉強の仕方」をお伝えするという「開倫塾の時間」の原点に戻り、長年お話ししてきた「学習の3段階理論」についてお話いたします。

2. 学習の3段階理論とは

Q: 「学習の3段階理論」はどのようにしてできたのですか。

A: (林明夫。以下略)

(1) 世の中には、同じ内容を勉強しながら、よい成績を取る人と余りよい成績が取れない人がいます。同じ試験を受けても合格する人と合格しない人がいます。それは何故か、皆様は考えたことがありますか。

(2) 私は、開倫塾を始めて31年になります。開倫塾を始める前も大学生の時から10年ぐらい学習塾や予備校の講師、家庭教師をしていましたので、合わせて40年近く、どうすれば塾生の皆様がよい成績が取れるようになるのか、どうすれば塾生の皆様が自分の希望する学校—開倫塾では自分の行きたい学校を「一流校」と呼んでいます—に進学できるかを考え続けてきたことになりましたね。

(3) ずっとずっと考え続けてはっきりしてきたことは、よい成績を取る人は自分なりの勉強の仕方

を身につけているということです。逆に言えば、余りよい成績が取れない人は自分なりの勉強の仕方を身につけていないということです。

(4)そこで、開倫塾を始めてしばらくして開倫塾の教育目標を定めるときに、その中にはっきり示そうと「自己学習能力の育成」(自分で学習する能力を育み育てること)を入れさせていただきました。CRT ラジオ栃木放送から毎週土曜日の午後に生番組で「開倫塾の時間」という番組をやり、スポンサーになるよう御依頼があったときに、「効果の上がる勉強の仕方」という内容であればと受諾させていただきました。

(5)どうすれば「効果の上がる勉強」ができるのかということ、塾生の皆様にも、保護者の皆様にも、放送等を聴いてくださる地域社会の皆様にも、ビジネスパートナーの皆様にも、そして何よりも開倫塾の先生方にわかりやすく御説明してわかっていただき、それを身につけて家や学校で勉強するときにも試験や実生活でも役立てていただこうと、できるだけ具体的にお示ししたのがこの「学習の3段階理論」です。

(6)どのようにして「学習の3段階理論」ができたか。私は小学生のころから勉強することが大好きでしたので、勉強の仕方には大きな関心がありました。中学校、高校、大学ではよく勉強する人を身近に数多く見ました。学習塾や予備校の講師、家庭教師として仕事をさせていただいている間も、また、開倫塾を始めさせていただいてからも数多くの塾生の方々と接しました。また、開倫塾以外でも素晴らしい勉強を毎日のようにさせていただいております。それらをすべてまとめさせていただいたのが、「学習の3段階理論」です。20年以上前から、少しずつまとめ始めました。その内容を CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」や開倫塾での授業、講師を依頼された大学院、大学、短期大学、専門学校、高校、中学校、小学校、教育委員会、企業、NPO などありとあらゆるところでお話させていただき、皆様から御意見をいただきながら少しずつまとめ直しているのが、この「学習の3段階理論」です。

(7)これをまとめている今日は 2010 年の大晦、一年の最終日 12 月 31 日ですので、これは 2010 年 12 月 31 日現在の「学習の3段階理論」と言えます。この「学習の3段階理論」は、これからも少しずつ進化していくかもしれませんね。このような経緯や意味で「学習の3段階理論」ができ上がり、また、考えられておりますので、どうかこの文章をお読みの皆様も自分なりの「勉強の仕方」を考え、身につける上で、この「学習の3段階理論」を参考にしていただければありがたく思います。

Q : 「学習の3段階理論」はどのような内容ですか。

A : 学習を「理解」、「定着」、「応用」の「3つ」の「段階」に分け、その1つ1つの段階の意味を考え「定義」した上で、1つ1つの段階ごとに具体的にどのような「勉強の仕方」をしたらよいかを

考えたものです。

Q：第1段階の「理解」とは何ですか。

A：(1)「理解」とは、今、学習していること(内容)が「うなるほど」と「よくわかること」、「納得できること」、「腑に落ちること」を言います。

(2)学習する人にとって、「理解」は自分自身で学ぶこと(自学自習)でもできます。また、学校や開倫塾などで先生から教わることで、つまり授業を通してでもできます。つまり、「理解」の場面は、自分自身で行う「自学自習」と、先生からの「授業」を通しての2つがあるということです。

Q：「授業」での「理解」のポイントは何ですか。

A：(1)一番大事なのは、授業中は姿勢を正し、手を机の上に置いて、先生の日や口もとを見つめ、先生の授業を一語一句聞き漏らさないように真剣に聞くことです。

(2)授業を「欠席」「遅刻」「早退」すると、教室に不在の間は先生の授業を受けられません。授業中に「私語」つまり「おしゃべり」や、「居眠り」、「携帯電話」、「他のことを考えていること」、「ボーッとしていること」、「授業以外のことをしていること」は、授業での「理解」の「妨げ」となります。また、これらのことは授業の雰囲気壊し、他の人が授業で「理解」をすることの「妨げ」となりますので、できるだけ避ける、できれば「絶対にしない」よう心掛けるべきです。

(3)授業には、先生の指示をよく守り、積極的に参加し、授業での「理解」を促進しましょう。「友人と話し合しましょう」「ペアワークをしましょう」「実験・観察をしましょう」「調べましょう」「練習をしましょう」などと積極的な行動に出ることを先生が指示したときには、その指示に従った行動をしてくださいね。

(4)授業中に、必要と思われることは「ノート」にどんどん「メモ」をすることも必ず行ってください。「板書事項」つまり先生が黒板に書いたことだけでなく、先生が授業中にお話してくださいましたことは一語残らずノートを取り続けるのも、ノートの取り方の一つの方法です。

Q：「ノート」を取ることで、「メモ」を取ることは大切なのですね。

A：(1)はい。人が話していることをすべてメモできる、ノートが取れることは大切な能力の一つです。

(2)例えば、私は、ロシア語で人から話を聞いたり授業を受けたりした内容はほとんどノートに取れないと思います。しかし、日本語で聞いたり授業を受けた内容は、余り難しくない内容で、

また、ゆっくり話してくださった場合には、ノートに取れることが多いかもしれません。つまり、私はロシア語ではメモやノートを取ることができない、ロシア語でノートを取る能力はありませんが、日本語ではメモやノートを取ることができる、つまり日本語でメモやノートを取る能力があると言えます。

(3)その言語でメモやノートが取れるのは大切な能力の一つだと私は思います。

(4)仕事をする上での教科書はほとんどありませんので、いろいろな人々から教えていただいたり、話し合った内容を正確にメモし続けて仕事を身につけたりして、仕事の上での約束を守ることが求められます。メモを取る能力は仕事をする上で役に立ちます。メモが取れない人はよい仕事ができない。メモがよく取れてメモをよく身につけた人は、よい仕事ができる。仕事はメモで身につける。仕事以外の社会的活動でもメモを取ることは大切です。

(5)学校の授業でノートを取ることのできる能力を身につけることは、社会に出て仕事や様々な活動をする際に大切なことをメモし、自分の社会人としての責任を果たすことに役に立ちます。

Q：なぜ「ノート」や「メモ」は取らなければならないのですか。

A：(1)「うんなるほど」と「理解」したことも、あとになるとその多くを忘れてしまうことが多いからです。

(2)ものごとを「うんなるほどと理解できること」と、それを長い時間「覚えておくこと」、「身につけること」とは別のことと考えた方がよい場合が多いように私は考えます。

(3)もちろん、印象深いことや、物語のようなお話は後々まで「記憶」の痕跡が残り、ずっと「覚えておく」こと、いつまでも「忘れない」こともあるかもしれません。

(4)しかし、授業で学んだこと、仕事の上で教えていただいたこと、話し合ったり打ち合わせをした内容のすべてをずっと覚えている、いつまでも忘れないでいることは、余りよくできないのではないかと私は考えます。

(5)ですから、授業や仕事、社会的な活動で大切なことはしっかりノートに取ったり、メモをして、いつでも見ることのできるようにしておくことが大切だと私は考えます。

Q：ノートに取ったことやメモをしたことはどうしたらよいのですか。

A：(1)授業が終わった後、人からいろいろなことを教わった後、仕事や社会的な活動で話し合いや約束ごとをした後に、その「ノート」や「メモ」をもう一回見直し、その内容をよく思い出して必要なことを書き足したり、後で見やすいようによく整理することをお勧めします。

(2)大切なところはマークを引く、下に線を引く、線で囲むと見易くなります。

(3)項目を下のように分けることを学ぶことも大切です。

(4)一番大きな項目は I、II、III、IV……

I
1.
2.
(1)
(2)
(3)
①
②
③
II

- ・次は 1、2、3、4……
- ・その下は (1)、(2)、(3)、(4)……
- ・更に ①、②、③、④……
と分けていくことが多いようです。
- ・1、2…の次は①、②、③…ではなくて(1)、(2)…です。
①、②は、(1)、(2)の次にきます。
- ・学校の教科書をよく見てくださいね。このようなことも、
将来、レポートや論文を書くときに参考になりますよ。

(5)学校や開倫塾などの授業でバッチリノートを取り、それを見やすいように整理し、すべて身につけるのは、社会に出てから最も大切な能力と私は確信します。「ノートやメモが取れるのは大切な能力」と考え、しっかり身につけてくださいね。

Q：「自学自習」、つまり、自分一人で勉強しても、「理解」はできるのですね。

A：(1)はい。学校の教科書や副読本、資料集、開倫塾のテキスト、副教材、図書館の本、本屋さんで売っている参考書などを「自学自習」つまり自分一人で勉強することでも、「うんなるほど」と「よくわかる」「腑に落ちる」、つまり、「理解」はできます。

(2)「自学自習」で大切なことは、何で勉強するのかをはっきり決めることです。あれもこれもと世の中にあるすべての本や本以外の教材を用いることは現実にはできません。自分はこの科目・この分野はこれで勉強して「うんなるほど」と「理解」するのだと、教材をはっきり絞り込み、できれば1～2冊に決定することです。

(3)何を用いて勉強したらよいか分からない人は、とりあえず、今勉強している学校の教科書や、皆様は開倫塾で勉強しているのですから開倫塾のテキストを用いることをお勧めします。

(4)教材を決定することが第一ですね。

Q：自分はこれで勉強するのだという教材を決めたら、次はどうしたらよいのですか。

A：(1)学校や開倫塾の授業中に先生から授業を受けるような真剣さで、教材の一語一句をゆるがせにせず、「ああ、これはこういうことなのか」「うんなるほど」と「腑に落ちる」、実感するまで「理解」に励むこと。

(2)ゆっくりゆっくりと一語一語のことばの意味・内容を噛み締めながら、「そうか、そういうことなのか」と読み進めることが最も大切です。とにかく、ゆっくりゆっくり読むことが大切です。

- (3)そして、よくわからない「語句」や「内容」が出てきたら、サーッと飛ばして先に進まないこと。よくわからないことが出てきたら、「気持ちがよくない」、「気持ちが悪い」と思い、その前や後の文章や内容をよく読み、それはどのようなことなのかその「語句」や「内容」を推測することが大切です。
- (4)それでもよくわからなければ、「辞書」(国語辞典、漢和辞典、英和辞典、和英辞典など)を引いて引いて引きまくり、「ことば」や「語句」の意味を調べまくることで。
- (5)調べた内容は、科目用の「ノート」や「語句ノート」に必ずメモし、記録をしておくこと。教科書に意味を書き込むことは避けましょう。
- (6)机のパッと開ける場所の上に辞書をいつも置いておくことが大事です。辞書を探しているようだと勉強になりません。
- (7)学校に自分のものを置いておくところがあるのなら、家で用いるのと同じ辞書を置いておきましょう。(別の辞書でも、もちろんOKです。)

Q : 「語句ノート」はどのように用いたらよいのですか。

- A : (1)「語句ノート」は、毎日1回、最初のページからゆっくり読み直し、語句の意味を正確に身につけること、つまり、この次に出てくる「定着」(スラスラ口をついて正確に言えるように「音読練習」をする。正確に楷書で書けるまで「書き取り練習」をする)させることが大切です。
- (2)「学力を身につける」とき大切なのは「ことば」の意味、「定義」を十分に「理解」した上で、正確に身につけることです。どの教科にも何百、何千も大切な「ことば」が出てきますので、1つ1つ着実に「理解」し、「定着」させることが大事です。「辞書」での意味調べは、その第一歩です。

Q : 「ことば」や「語句」の意味は辞書で「理解」できても、そもそも内容が難しくてよくわからない場合にはどうしたらよいのですか。

- A : (1)「学年別参考書」を辞書の代わりに用いて、その内容を「理解」することが大切です。
- (2)参考書は、説明がやさしい表現で詳しく書かれているものがお勧めです。
- (3)内容がよくわからない場合には、学年別の説明が丁寧な参考書を辞書代わりに用いることがここでの勉強のコツです。
- (4)「分野別の参考書」、「教科別の辞典」、「用語集」、「百科事典」なども役に立ちますよ。

Q : 学校や開倫塾の教科書など自分で決めた教材を辞書と参考書を用いて自分の力でひたすら「理解」

し続ける勉強の方法は、予習でも復習でも使えそうですね。

A：はい。その通りですね。

Q：ところで、予習は何のためにするのですか。

A：(1)私は、今述べたような方法で、学校や開倫塾の先生方の授業をお聴きするような真剣さで、教科書の一行一行を一語一句ゆるがせにしないで「うんなるほど」「そうか、これはこのようなことだったのか」と「理解」し、よくわからない「ことば」や「語句」は辞書で、「内容」は学年別の説明の丁寧な参考書を辞書代わりに用いて、「理解」し尽くすことが予習の第一歩と考えます。

(2)そして、どうしても自分の力では「うんなるほど」と「理解」できないところは何かをはっきりさせる、明確にする、つまり問題意識をもって授業に臨むことが予習の目的と考えます。

(3)予習をすることでわからないことを自分の力ではっきりさせてから授業に臨む。この勉強の方法は、皆様が将来、大学や大学院で勉強したり、研究したりするときにも、また、社会に出て企業や様々な場所でものごとを学んだり取り組んだりするとき、とても役に立ちますよ。予習をすることの意味をはっきり自覚し、将来に備えてくださいね。

Q：「理解」することは、「復習」をするときも大切なのですか。

A：(1)一度授業を受けた後の復習でも、先生の授業を聴くような真剣さで、教科書を一語一句ゆるがせにしないでゆっくりゆっくり「うんなるほど」と「理解」するまで読み込む。わからない「語句」は「辞書」、わからない「内容」は「学年別参考書」や「用語集」で「理解」に励むという、この勉強の仕方は役に立ちます。

(2)このような方法で「復習」をしてもよくわからない、「理解」できないことがあれば、学校や開倫塾の先生にどうか遠慮なく質問してくださいね。わからないこと、「理解」できないことを残さないことも大切な勉強の方法です。

(3)今まで習ったことがすべて100%「理解」できていれば、次に習う新しいことがよく「理解」できる場合が多いと考えます。新しいことを完全に「理解」するために最も求められるのは、それまでに学んだことをよく「理解」していることです。

(4)新しいことを100%完全に「理解」するためには、それまでのことを100%「理解」し、できれば「理解」した内容を正確に身につけていること、次に出てくる「定着」していることが大切と考えます。

(5)この考え方を「完全修得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリー)」と呼びます。

(6)例えば、これから習う教科書の 60 ページから 65 ページまでを完全に「うんなるほど」と「授業」や「自学自習」で「理解」したいならば、それまでに勉強したはずの 1 ページから 59 ページまでをすべて「うんなるほど」と完全に「理解」し、できればすべて身につける(「定着」させる)ように努力しておいた方がよいということです。

Q：お話が随分本格的になってきましたね。

A：はい。「うんなるほど」と「よくわかる」「腑に落ちる」という意味での「理解」も、よく考えれば、いろいろな考え方、やり方があるということです。この「理解」についてお伝えしたいことはまだまだたくさんありますが、少し長くなりましたので、「学習の 3 段階理論」の第 1 段階である「理解」のお話は今回はこれでおしまいにしましょう。

3. おわりに

(1)次回の CRT 栃木放送「開倫塾の時間」2011 年 1 月 8 日土曜日午前 9 時 15 分から 9 時 25 分までの放送では、「学習の 3 段階理論」の第 2 段階である「定着」について御説明させていただく予定です。

(2)上の文章は、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の林明夫のコーナーの CRT 栃木放送「開倫塾の時間」のページでも公開しております。他の「開倫塾の時間」の内容の文章とともに是非御覧ください。

(3)本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

*長い文章を最後までお読みいただき、感謝申し上げます。

2010年12月28日午前9:35～9:45 CRT 両毛支局にて収録

「定着」とは何かを考える

－「学習の3段階理論」で学力を身につけよう(2)－

開倫塾
塾長 林 明夫

* 1月1日の放送内容に引き続き、CRTのスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいようにQandAの形で書き直してみました。

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)この「開倫塾の時間」では、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」を放送をお聴きの皆様とご一緒に考えております。今回は、前回(1月1日)に引き続き学習を「理解」→「定着」→「応用」の3つの段階に分け、その段階ごとに何をどのようにしたらよいのかを考える「学習の3段階理論」に基づいて、どうしたら「効果の上がる勉強」ができるかを考えます。
- (3)前回は学習の第1段階の「理解」について取り上げましたので、今回は第2段階の「定着」について考えます。

2. 「定着」とは何かを考える

Q:「学習の3段階理論」の第2段階である「定着」とは何ですか。

A:(林明夫。以下略)「定着」とは、「そうか、これはこういうことだったのか」と一度「うんなるほど」と「よくわかった」「腑に落ちた」ことを「スミからスミまで正確に身につける」ことを言います。

Q:なぜ「定着」が大事なのですか。ものごとは「うんなるほど」と「理解」すれば十分なのではないですか。

A:(1)素晴らしい質問ですね。この放送をお聴きの皆様の中にも、また、この文章を今お読みの皆様の中にも、「うんなるほど」と「よくわかった」つまり「理解」したことを「スミからスミ

まで正確に身につける」という意味での「定着」など必要ないとお考えの方もたくさんいらっしゃるのではないかと推測されます。

(2)なぜ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」という意味での「定着」が大切なのか。それは、いくら熱心に、「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組むこと)」に、真剣に学校や開倫塾の先生のお話を授業中に聴いて「うんなるほど」と「理解」しても、また、「自学自習」つまり自分で「教科書」などの教材を熱心に勉強して「そうか、これはこのようなことなのか」と「うんなるほど」と「理解」しても、「理解」した内容の全部とは言いませんが、その多くを忘れてしまうことが多いからです。

(3)先生が授業中にお話したことを一言残らずノートにメモし続けても、また、よくわからないことばや内容を辞書や参考書、用語集などを用いて調べその内容をノートに書き写しても、全部とは言いませんがその多くを忘れてしまうことが多いからです。そうでない人もいるかもしれませんが、「理解」したことすべてを忘れることのない人は余りいない。そう私には思えません。

(4)頭がよい人は忘れることはなく、頭が余りよくない人は忘れやすいという考えに、私は賛成しません。そもそも頭がよい、余りよくないという考えにも私は賛成しません。テストなどでよい成績を取る人は、よく勉強した人です。よい成績が取れない人は、勉強が足りなかっただけです。勉強した人は成績がよく、勉強が足りない人はよい成績を取ることが余りない。よい成績を取りたかったら勉強をすればよいだけです。ただ、大事なものは、どのように勉強するかです。

(5)学校のテストや入学試験、様々な試験でよい点数が取れる人、「あの人はよく勉強しているね、学力が高いね」と社会に出てからも言われる人は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につけている」「定着」させている人であると言えます。

(6)なぜ「うんなるほど」と「理解」したことを「定着」させた方がよいかと言えば、学力を身につけて、学校のテストや入学試験をはじめ様々な試験でよい点数を取るため、よい点数を取って自分の人生の選択肢を広げるためです。

(7)よい点数が取れば希望する学校に入学することもできます。その学校で一定の成績・点数が取ればその学校を卒業することもできます。よい点数を取れば資格試験や就職試験に合格できます。自分の就きたい仕事に就いたり、自分の希望する職場で働くこともできます。一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」「定着」させることは、試験で求められるだけのよい成績を取るためには必ず必要です。

(8)社会に出て仕事をしたり、様々な活動をするためにも、仕事や社会での活動に必要な知識や

技術、情報の内容をよく「理解」した上で正確に身につけておく必要があります。

(9)例えば、自動車を運転するときには、自動車の運転免許証を取るための試験に合格することがもちろん必要です。試験に合格した後も、1つ1つの道路標識が何を意味するかを「うんなるほど」とよく「理解」して正確に身につけてから運転しないと、道路交通法違反で罰せられることもあるし、事故を起こすことにもなります。大事故の原因になることもあります。進入禁止の道路標識の意味を一度は「うんなるほど」と「理解」はしていても、その標識の意味を忘れてしまい進入禁止の道路標識のある道路に進入すれば、向こうから来る自動車と正面衝突をして死亡事故を起こすことすら考えられます。

(10)現代は「知識が基盤となった社会」つまり「知識基盤社会」ですので、社会に必要な高度な「知識や情報、技術」の1つ1つの意味を「うんなるほど」とよく「理解」し「正確に身につける」つまり「定着」した上で、それらをうまく組み合わせながら用いる能力が求められます。

(11)社会に出て生涯にわたって活動するときこそ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることが大切と、私は強く皆さんに訴えたく思います。

(12)学校で勉強した内容を「理解」し、「定着」するという「勉強の仕方」は、社会に出てからも役に立ちます。開倫塾の塾生であるうちに身につけてくださいね。

Q：では、どのようにしたら一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることができますか。できるだけ詳しく、また、わかりやすく説明してください。

A：(1)私は、「定着」には3つの段階があると考えます。

(2)「定着」の1つめは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、「スラスラ口をついて正確に言えるようにすること」です。

(3)「○○とは何ですか」と聞かれたら「○○とは△△△△ということです」と「スラスラ口をついて正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップです。

(4)英語の文章をその日に10勉強したら、その意味を「うんなるほど」とよく「理解」した上で、その文章を「何も見ないでスラスラ正確に言えるようにすること」。これが「定着」の第1ステップです。

(5)「日本国憲法の三大原理」とは「国民主権と平和主義、基本的人権の尊重である」ということを社会の授業で勉強し、「日本国憲法」「三大原理」「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の1つ1つのことばの意味やその内容を「うんなるほど」とよく「理解」したら、次に「日本国憲法の三大原理とは国民主権、平和主義、基本的人権の尊重である」と「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるまでにすること」が、「定着」の第1ステップです。

(6)学校で学ぶすべての科目について、このように一度「うんなるほど」とよく「理解」したこ

とが「スラスラ口をついて正確に言えるようにすること」が、「定着」の第 1 ステップと考えてくださいね。

Q：一度「うなるほど」とよく「理解」したことを「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようにする」にはどうしたらよいのですか。

A：(1)学校や開倫塾の教科書やテキスト、授業中にとったノートやメモ、語句ノートを、ジーンと何回も何十回も見つめてすべて覚えてしまうことも非常に役に立ちます。是非折に触れて、今まで授業や自学自習で勉強したところまでの教科書やノート、参考書や様々な教材をジーンと何回も何十回も、もっと言えば、何百回も、最初のページから読み直してみてください。必ず、「何も見ないでスラスラ口をついて言える」ようになります。

(2)ただ、もっとよい方法もあります。それは声を出して読むことです。

(3)一度「うなるほど」と「理解」したことが書いてある教科書や授業中のノート、語句ノート、参考書などを、大きな声を出して何回も何十回も何百回も繰り返し繰り返し読む練習をすることです。

(4)「絶対にスミからスミまで口をついて正確に言えるようにするぞ」と決意して、声を出して読む「音読練習」を繰り返すことです。「スミからスミまで口をついて正確に言えるまでにする」と決意し、願いを込めて「音読練習」を繰り返すことです。何回も何回も音読すれば、必ず正確に言えるまでになりますよ。

(5)この「音読練習」を繰り返し、一度「理解」したことが「スラスラ口をついて正確に言えるようにすること」が、「定着」の第 1 ステップです。

(6)この音読練習だけで、定期テストで 100 点を取ったり、偏差値を 20 以上アップさせる人がたくさんいます。教科書や教材を 1 ページから最終ページまで音読練習すれば、学力は飛躍的に向上します。どんなに難しい試験にも合格します。難しい国家試験にも合格し、自分の就きたい仕事にも就けます。

Q：「定着」の第 2 ステップは何ですか。

A：(1)一度「うなるほど」と「理解」したことが、「音読練習」などをして「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言える」ようになったら、「何も見ないで楷書で正確に書けるまでになること」。これが「定着」の第 2 ステップです。

(2)「何も見ないでスラスラ正確に言えること」も素晴らしいですが、それらがすべて正確に楷書で書けるようになればもっと素晴らしい。文字という手段で、自分が身につけた知識を書き表すことができるからです。他人にも、文字でものごとを正確に伝えられるようになるからで

す。

(3)学校のテストや入学試験、資格試験や採用試験には筆記試験が課され、今までに学んだことが正確に書けるかどうかという出題が多いことは厳然たる事実です。自分の人生における選択肢を広げるために、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に楷書で書けるようにすること」は大切なことです。

(4)学校以外の生活や仕事、活動の場でも「正確に楷書で書けること」は欠かせませんからね。

(5)ではどのようにしたらよいかと言えば、「書き取り練習」が一番効果的です。その手順、プロセスを次にお示しします。よくお読みになり、実行してください。必ずできるようになります。

(6)まずは、一度「うんなるほど」と「理解」し、それを「音読練習」で「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようにする」。これができたら、まずは何も見ないで、ノートにその内容をすべて書いてみましょう。すべて正確に書けたら OK です。しかし、よく書けない語句があったらこの語句だけでもよいですから「書き取り練習」を繰り返す。正確に書けるようになったら「何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでになった」内容をもう一度書いてみる。この作業を確実に行うことをお勧めします。

(7)「楷書」とは、漢字の書体の一つで点画(漢字の点と画)をくずさない書き方です。教科書で用いられている書き方なので、一度は身につけてくださいね。点や画を略した草書や、楷書と草書の中間の行書という書体もありますが、まずは点画をくずさない楷書を学校や開倫塾の教科書・テキストを用いて身につけてくださいね。

(8)学校の試験や入学試験、国家試験や採用試験では、試験官は数多くの答案用紙を読み、採点します。読みにくい文字は試験には不利ですので、楷書を身につけてくださいね。

(9)英語は、ブロック体と筆記体をペンマンシップや学校の教科書や開倫塾のテキストを用いて正確に身につけた上で、語句の読み方とスペリング(綴字)を確実に身につけてくださいね。

語句の読み方は、教科書の CD や辞書に出ている発音記号を用いて、何回も何回も「音読練習」をして身につけてくださいね。

(10)日本人が世界の人々から高く評価されることの1つは、英語の文字や数字を非常に美しく書くことができるということです。

日本では習字が非常にさかんで、小学生のうちから文字を美しく書く訓練をしているせいか、アルファベットや数字も非常に美しく書くことができる日本人が多く、余りに美しい文字を書くので世界の人々から高く評価されます。美しい文字を書くことのできる人は、高い知性、高い教養の持ち主であると考える人が外国では多いからです。(あんなに美しい文字で書けるのに、話せる英語は簡単なあいさつや単語だけだとびっくりされないようにがんばりましょうね)

(11)ブロック体しか書けない人は、サインを真似されやすいので、外国で詐欺事件に巻き込まれやすい、犯罪の被害者になりやすいとされています。ブロック体だけではなく筆記体も必ず練習して、せめて自分の名前だけでもいつも同一の筆記体の書体でスラスラ書けるまで何百回も「書き取り練習」を繰り返しましょうね。

外国の人が筆記体で書いた文字や文章を読まなければならないことも、外国の人とコミュニケーションを取るときや外国に出掛けたときには必要となることもあります。筆記体を読み取るには筆記体が自由に書けることが役に立ちます。筆記体を書けることは、筆記体が読めることにつながることも多いので、筆記体の練習は学校を出てからも続けてくださいね。

(12)ちょっと脱線するかもしれませんが、英語について言えば「読んでわからないことは、聞いてもわからない」とよく言われます。英語のリスニングがどうしても難しいのは、英語の文章を読むことが難しい人の場合が多いと思われまます。リスニングの能力を上げたければ、英語の文章をたくさん読み、読んでわかる能力、読解力を身につけることが大切だと私は考えます。もちろん CD を聞いたりリスニングの練習をすることも大切ですが、「読んでわからないことは、聞いてもわからない」ということも真実と思われまますので、多くの英語の文章を読むことも大切と思い、真剣に行っていただきたいと私は希望します。

(13)また、筆記体も同じで、「筆記体を書けなければ、筆記体はよく読めないことも多い」と思います。

(14)筆記体を読めないことは、外国人とのコミュニケーションをする場合に非常に不利です。外国の人々と交流し、世界で活躍する皆様は、是非筆記体を身につけてください。

Q：たとえば、人や土地の名前も書けるようにしたほうがよいのですか。

A：(1)ある教科を勉強するとき書けるまで「書き取り練習」をして知識を身につける、「定着」させた方がよいのは、「教科書に書いてあることすべて」です。

(2)「ノート」を用いて勉強するとき書けるまで「書き取り練習」をすべきなのは、「ノートに書いてあることすべて」です。

(3)ですから、当然、事物を表す語である「名詞」は、人や土地の名前などの「固有名詞」を含めて教科書に載っているものはすべて書けるまでにしてくださいね。

(4)社会の地理で地名が出てきたら、必ず地図帳でその地名の場所はどこかを確認してから正確な書き方を「書き取り練習」しましょう。代表的な外国の地名は、英語での表記法も「書き取り練習」を繰り返し身につけておくとよいでしょう。

(5)歴史で歴史上の地名や年号が出てきたら、副教材の地図帳や歴史年表、教科書や参考書の地図や年表を用いて必ずその場所や年号を確認した上で、地名を正確に書けるまで、また、年号

とそのときの出来事を正確に書けるまで「書き取り練習」をすること。

(6) 社会の公民や政治経済で教科書に憲法やその他の法律の条文が出てきたら、必ず教科書の最後に付録・資料として載っている条文を確かめ、ゆっくり声を出して読む「音読練習」をしてから、「書き取り練習」をして正確に書けるまでにすること。教科書に出てくる法律の条文はその法律の中でも最も大切なものが多いので、よくその意味を「理解」してから「音読練習」をして「正解に何も見ずにスラスラ言えるようにすること」、スラスラ言えるようになったら、「書き取り練習」をして「何も見ないで楷書で正確に書けるまでにすること」ことが学校のテストや入試試験でも役に立ちますし、また、社会に出てから生活や仕事、社会的な活動をするときには、学校時代の何十倍も役に立ちます。「法律の無知は許されず」。社会のルールとして法律があるのに、それを知らないで社会で活動するのは、ルールを無視してサッカーや様々なスポーツをするとペナルティが課せられるのと同じで、人間や企業などの行動として許されない、つまり刑罰を科されたり損害賠償を請求される原因となります。また、自分の権利が侵害されても、自分が権利を持っていることすら知らなければ大きな損害を被ることにもなります。いろいろな意味で、法律を知りその意味を「理解」し、その内容をスラスラ言えるまで・正確に書けるまで「定着」させることは、自分のためにも社会のためにもなります。

(7) 理科の第1分野・第2分野の教科書に出てくる内容も、すべて「うんなるほど」と「理解」した上で「音読練習」を繰り返し、「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるまでにすること」、スラスラ正確に言えるようになったら、「書き取り練習」を繰り返して「正確に書けるまでにすること」ことです。

(8) 物理の「○○の原理」「○○の法則」などの内容も「スラスラ言えること」、「正確に書けること」が大事。化学の化学記号(つまり化学物質を示す記号、元素記号なども)や化学式もその意味をよく「理解」した上で、スラスラ言えたり、正確に書けるようにすること。生物の教科書に出てくる1つ1つの内容をよく「理解」し、「正確に言えるように」「正確に書けるように」することです。

Q : えっ、細胞や植物、動物、人体図までも正確に書けるまでにするのですか。

A : (1) 教科書の上に、教科書の図が透かして見える半透明の紙(トレース紙)を置き、その上から図をなすって書き写すと覚えられます。

(2) 教科書の図をトレース紙を用いてゆっくりなすって書き写し何も見ないで正確に書けるようにすることは、よい成績が取れるだけでなく、とても面白いです。実験装置の書き写しも面白い。この書き写しをすることで、理科や科学が大好きになる人も多いです。

(3) 教科書に出ている鉱物の図を書き写すことにも是非挑戦してくださいね。

(4) 社会の教科書や地図帳を用いて地形を書き写すこと、書き写すことで何も見ないで地形がスラスラ書けるようになることは、地理や社会を得意科目にし、大好きにするととてもよい勉強方法です。

(5) 他の科目も、教科書に出ている図や表は興味のあるものからすべて書き写し、覚えてしましましょう。ノートやメモの内容もすべて書き写し、覚えてしましましょうね。

Q : 書き写し(筆写)はよい勉強になるのですね。

A : そうですね。少し脱線しますが、私は正岡子規が好きなので、12月17日に本屋さんに行き、岩波書店から刊行されたばかりの坪内稔典著「正岡子規—言葉と生きる—」(岩波新書)を読んでいたたら、子規と同年に生まれ、後に大学予備門(今の東京大学)で同級生となる南方熊楠と子規の少年時代のことが書いてありました。

(1) 「小学生のは友人の家に遊びにゆき、そこにある江戸時代の百科辞典『和漢三才図会』を読んだ。暗記して家に帰り、半紙を綴じた帳に書きつけた。図も暗記して書いた。熊楠は3年かけて105冊のその百科辞典を写してしまった。それだけでなく、中国の植物学の事典『本草綱目』52巻(21冊)も写した。古本屋から借りた『太平記』50冊も写したし、『諸国名所図絵』『節用集』なども写した。自身の言葉で言えば、「書籍を求めて、8~9歳のころより20町、30町も走りありき、借覧し、ことごとく記憶し帰り、反古紙に写し出し、くりかえし読みたり(「履歴書」大正14年)ということになる。(※1町は約109メートル)

(2) 少年時代のこの恐るべき筆写が熊楠の知の基礎になった。筆写が基礎的な力として働き、百科学的な学者、熊楠を育てた。

(3) 熊楠ほどではないが、少年時代の子規もまた筆写した。

(4) 「紙をよくつかふ、と言って母からさいさいぶつぶつ言われていました。大方写し物や書き物に、人一倍半紙をつかったものと見えます」

正岡律著「家庭より観たる子規」昭和8年

(5) (正岡子規の)妹(正岡律)の回想は、筆写に熱中した子規の姿を髣髴とさせるではないか。近所に住み子規と一緒に小学校や漢学塾に通った三並良は、貸し本を読んだ13歳ごろのことを次のように回想している。

(6) 貸賃は5冊—昼夜が5厘で、1日の中なら何度とり代え、何冊になっても、矢張り5厘だ

(7) 水滸伝や八犬伝の中に名文があると、子規はよく写し取って居た。彼は一休和尚の伝記を

見たことがある。彼は字が達者で写本などは苦と思わず、寧ろ楽しみにして居たのだ。

「子規の正年時代」昭和3年

(8)松山市の子規記念博物館に「香雲筆写」という写本が展示されている。香雲は中学時代の子規の雅号だが、小学生から中学生にかけての子規はせつせと筆写した。いや生涯にわたってその筆写を続けたと言ってよい。

(9)子規の筆写の最たるものは、明治24年(25歳の時)ごろから始めた「俳句分類」であろう。のちに『分類俳句全集』(昭和3~4年)全12巻として出版されるが、古今の俳句を四季、事物、表現の形式、句調などによって分類したこの大がかりな筆写は、子規の俳句観の基礎を形成した。俳句史、俳句の表現上の特色などをこの分類を伴う筆写によって子規は身につけた。

(10)虫鳴くや俳句分類進む夜半 (明治30年)

吉原の太鼓聞こえて更くる夜に、ひとり俳句を分類すわれは (明治31年)

(11)この当時の子規は余命10年を自覚していた。筆写はいわば彼の命をその底で支えていたのかも知れない。

以上(1)~(11)は、坪内稔典著「正岡子規—言葉と生きる—」

岩波新書、岩波書店2010年12月17日刊P10~14よりの引用です。

俳人の正岡子規や、後に博物学、生物学、民族学などと取り組み壮大な宇宙観を開示した南方熊楠*は書き写し、筆写によって学力を身につけ、自分の世界を切り開いたと言えますね。

*坪内稔典著前掲書P7より引用

Q:「定着」の第3ステップは何ですか。

A:(1)学校や開倫塾の授業や、自学自習で自分で勉強をして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」と「よくわかった」「腑に落ちた」「計算」や「問題」について、「計算」や「問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまでにすること。

(2)これが「定着」の第3ステップです。

Q:その「手順」を詳しく説明してください。

A:(1)学校の授業で勉強した「計算」や「問題」は、授業が終了したら必ずもう一度「答え」や「解答」を見ないでやり直してください。

(2)もう一度やり直してみて、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」

と「よくわかった」「腑に落ちた」ら、「理解」できたと言えますね。

(3)「理解」できなかった「計算」や「問題」は、教科書や授業中のノート、参考書などをもう一度じっくり勉強し直し、「理解」できるまでにすることが大切です。

(4)自分の力ではどうしても「理解」できない場合は、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問してくださいね。勉強に遠慮は不要です。「よくわからない」つまり「理解」していないまま先に進むことは避けましょう。

(5)このようにして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかがよくわからなかった、よく「理解」できなかった「計算」や「問題」がよく「理解」できるようになったら、もう一度自分の力でその「計算」や「問題」をやり直してみましよう。それでもわからなかったら、もう一度「理解」のための努力をし直すこと。あきらめないで、何回でも挑戦してくださいね。

(6)なぜそのような「答え」や「解答」になったのかが「うんなるほど」とよく「理解」できたら、次にどうするのか。「計算」や「問題」を見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまで何回も、何十回も練習を繰り返すことです。これを「計算・問題練習」と呼びます。

(7)大切なことは、学校や開倫塾の教科書、テキスト、問題集には絶対に「答え」や「解答」を書き込まないことです。「計算」や「問題」の「答え」や「解答」はすべてノートに書き込むことです。

(8)間違えた「計算」や「問題」の前に自分で印をつけておくことは、賢い方法です。

Q：なぜ「計算」の「答え」や「問題」の「解答」が、「計算」や「問題」を見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射で出てくるようにすることが大切なのですか。

A：(1)学校の定期テストや入学試験はじめ、世の中のありとあらゆるテストや試験には、ゆっくり時間をかければ解けるが、パッ、パッ、パッと短い時間では解くことが難しい問題が必ず出題されます。

(2)どのような試験でも試験の時間は決められています。よい点数を取るためには、自分で「うんなるほど」と「よくわかっている」、よく「理解」している「計算」や「問題」は見た瞬間にパッ、パッ、パッと「答え」や「解答」が出ると時間に余裕が生まれます。

(3)余った時間で、時間をかければ解ける「計算」や「問題」をじっくり考える時間を確保することができます。

(4)時間のかかる難しい「計算」や考えさせられる「問題」を解く時間を作り出すためには、見た瞬間にパッ、パッ、パッと条件反射でできるものが多ければ多いほどよいのです。

- (5)また、社会での生活や仕事、社会的な活動をするときにも、よく「理解」している「計算」や「問題」はどんどんでき、条件反射で答えが出せるほうが便利です。
- (6) $5 \times 3 = 15$ ですが、5に3をかけるとはどういうことか、なぜ15という答えになるかなどといちいち、これはなぜこのような「答え」や「解答」になるのか、また、どのようにこの「計算」や「問題」を解いたらよいのかを考えていては不便この上ない。ものごとが先に進まないこともたくさんあります。
- (7)数学や理科の「計算」や「問題」だけでなく、英語や国語、社会の「計算」や「問題」についても、また、「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健体育」の「計算」や「問題」についても、この「計算・問題練習」を繰り返してくださいね。

3. おわりに

Q：3つの「定着」のためには「練習」が大切なのですね。

A：(1)「学習の3段階理論」では、「音読練習」と「書き取り練習」、そして「計算・問題練習」の3つの「練習」を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾大学の塾長を務められた小泉信三先生のことばがあります。「定着のための3大練習」は「不可能を可能にする」大きな力を皆様に与えてくれます。

(3)「定着のための3大練習」は学校の定期試験で100点満点が取れ、学校でよい成績を皆さんに取らせます。自分の行きたい学校、つまり自分にとっての「一流校」への合格を導きます。様々な資格試験、国家試験や採用試験に皆様を合格させます。皆様の人生における選択肢を広げるのが、一度「うんなるほど」とよく「理解」したことの「定着のための3大練習」です。

(4)社会に出ても役に立ちます。

(5)あきらめたらおしまい。自分の未来は自分の力で切り開く。このための最も有効な手段・方法の一つが、今回お話した「定着のための3大練習」です。

2011年1月12日午前9:20～9:30 CRT 両毛支局にて収録

「応用」とは何かを考える

－「学習の3段階理論」で学力を身につけよう(3)－

開倫塾

塾長 林 明夫

* 「応用」について、CRT 栃木放送「開倫塾の時間」でお話する内容に大幅に加筆をして、お読みになりやすいように QandA の形でまとめてみました。どうか一項目ずつゆっくりお読みになり、御自分の勉強の仕方を考え、それを身につけるときに参考にしてください。かなり長くなります。

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)今日1月15日(土)と明日1月16日(日)は大学入試センター試験が全国各地の受験会場で行われます。受験生の皆様のご健闘を心からお祈り申し上げます。
- (3)さて、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」をお話させていただいているこの CRT の「開倫塾の時間」も、おかげさまでこの3月で25年目を迎えます。記念すべき25周年を迎えるのが2011年ですので、本年1月1日の土曜から「開倫塾の時間」の原点に戻り、私がこの番組で24年間お話ししてきた、年齢や性別、出身に関係なくだれでも、いつからでも、どんな場所でも学力が身につく勉強の仕方をまとめ上げた「学習の3段階理論」をご紹介させていただいております。
- (4)「学習の3段階理論」というのは、学習を「理解」→「定着」→「応用」の「3段階」に分け、それぞれにふさわしい勉強の仕方を具体的に考えるものです。本年第1回の1月1日の放送では「第1段階」の「理解」、第2回の1月8日には「第2段階」の「定着」についてお話ししましたので、本年の第3回目である今日1月15日は「第3段階」の「応用」についてお話し致します。

2. 「応用」とは何かを考える

《応用とは》

Q：「学習の3段階理論」の第3段階である「応用」とは何ですか。

A：(林明夫。以下略)

- (1) 「応用」とは、「うんなるほど」と一度「よくわかった」つまり「理解」したことを、「音読練習」や「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」などを繰り返してスミからスミまで正確に「定着」つまり身につけた上で、その身につけた内容を用いて「テストでよい点数を取る」と「実際の生活で役に立てること」をいうと私は考えます。
- (2) 「理解」したことを「定着」つまり身につけ、「定着」・身につけたことを用いて「テストでよい点数を取る」と、「実際の生活で役に立てること」が「応用」と私は考えます。

《「理解」「定着」なくして「応用」なし》

Q：「応用」の手前で大切なのは、「理解」したことを「定着」つまり身につけているということですね。

- A：(1) その通りです。「定着」つまり「身につける」前に、「定着」させるべき内容を「うんなるほど」と「よくわかる」つまり「理解」しておくことが大切なと同じです。
- (2) テストでよい点数を取りたかったら、テストの対策ばかりしないで、テストに出る内容についてまずは「うんなるほど」とよく「理解」しておくこと。よく「理解」したことは、スミからスミまで正確に身につけておく、「定着」させておくことが大事です。「理解」と「定着」なくして「応用なし」、つまりテストでよい点数を取ることはありません。
 - (3) まず、このことをよく「理解」してくださいね。「理解」したら、「応用」つまりテストのための勉強に入る前に「定着のための3大練習」を確実に「実行」して、「理解」したことをスミからスミまで正確に身につけてくださいね。これだけは、何が何でも必ずお願いします。
 - (4) 「理解」なくして「定着」なし。「理解」、「定着」なくして「応用」なし。仕事もそうですが、勉強には「手順」が、順序、順番が大切です。

《勉強でも手順、順番は大事》

Q：「勉強でも順番が大切」なのですね。

A：(1) はい。「理解なくして定着なし」、「理解→定着なくして応用なし」です。

- (2) 仕事をやるときはもちろんですが、人間が一つのことをやるときには「手順」、英語でいうと Process(プロセス)、Procedure(プロセデュア)、「順序」、「順番」が大切です。A をやったら B、B をやったら次は C、C の次は D、D が終わったら E と、「手順」をものごとを行う前

に時間をかけてよく考えること。頭の中で考えたことは紙やノートに書き、それを見ながらさらに考えを深め、もっとよい「手順」を考えて考えて考えること。考え抜くこと。考え抜いてこれ以外にない、だから自分はこうやると「決意」したことをノートや紙に書き、自分を納得させる、つまり自分自身に「理解」させる。その「手順」を忘れないように、何回もジーンと見たり、声を出して読んだり、書いてみてしっかり身につける、つまり「定着」させる。「理解」し「定着」したら、その通りやってみる、つまり「応用」する。

(3)このように、ものごとを成し遂げるには「手順」についての強いこだわりを持つことが大切です。

(4)勉強で成果を出したいのなら、「理解」→「定着」→「応用」という手順を自分自身で十分納得して身につけ、自由自在に自分のものとして用いることです。

(5)「理解なくして定着なし」、「理解→定着なくして応用なし」。この「手順」、順番だけはしっかり自分のものにしてくださいね。

《テストでよい点数を取るには》

Q：「テストでよい点数を取る」ためにはどうしたらよいですか。

A：(1)テストにもいろいろあります。まずは、学校のテストについてお話ししましょうね。

(2)学校で行うテストの中で一番多く行われるのは、その日の授業内容についての「確認テスト」ですから、「確認テスト」でよい点数を取る方法を考えましょう。

(3)「確認テスト」は、その日の内容について授業終了直前か、前回の授業内容について授業開始直後に行われることが多いと思われます。

(4)その日の授業で先生が話したことをよく聞くこと、先生の指示にしたがって積極的に授業に参加することが最も大切です。

(5)授業に積極的に参加して、先生の授業をよく聞き、授業の内容を「理解」すること。「理解」しながら、大切と思われることは授業時間中に少しでも自分の記憶の中にとどめるよう努力をすることです。

(6)授業直後に「確認テスト」がある場合は、「理解」はできても授業内容のすべてを身につける、「定着」させることはなかなか難しいとは思いますが、先生は「確認テスト」直前に何分か時間をくださり、今日やったことを復習するように指示なさる場合が多いでしょうから、たとえ数分でもそのような時間があったら、精神を集中してその日のノートや教科書を全部覚えてしまいましょう。

(7)読むことが難しそうな語句は読む練習をしましょう。書くのが難しそうな語句は書く練習を、計算・問題が難しそうなものは、授業中のノートを見てなぜそのような答え・解答になるのか

確かめましょう。

Q：その日の授業の最後に行く「確認テスト」で間違えた問題があったらどうすればよいのですか。

A：(1)その日の授業終了直前に行われた確認テストで間違えた問題があったら、なぜ間違えたのか、その理由をテストが終わった後に自分でよく考えてくださいね。これを「誤答分析」といいます。

(2)この「誤答分析」をして、もし「理解」が不足していたのなら、それは一体どのようなことなのか、もう一度「理解」のための取り組みをしましょう。語句の意味がよくわからなければ辞書を引いて調べる。内容がわからなければ教科書や参考書、資料集で調べる。よく「理解」はしているのだが、音読練習や書き取り練習、計算・問題練習が足りないことが原因で間違えたのなら、「定着のための3大練習」を繰り返す。

(3)学校なら授業終了直後の休み時間や放課後の教室や図書室で、開倫塾なら夜10時30分までは自習時間になっているので、その時間を有効に活用してくださいね。

《確認テストで100点を取るには》

Q：次の授業の開始時に「確認テスト」がある場合はどうしたらよいですか。

A：(1)授業直後と違って「確認テスト」のための準備時間があるので、こんなに有難いことはありません。

(2)できれば授業のあったその日のうちに、家に帰っていつも勉強する場所で、学校の教室か図書室、学校に自習室があれば自習室で、先生の授業をゆっくりと思い出しながら、学校の教科書や問題集、副教材、ノートをもう一度すべて勉強し直すこと。

(3)自分で勉強し直してみて、語句の意味がわからないものがあれば必ず辞書を引くこと、内容がわからなければ教科書や参考書、ノートなどをもう一度ゆっくり勉強し直すこと。それでもよくわからないところには印をつけておいて、次の授業のときに先生に質問すること。

(4)その日の授業中にやった計算や問題もすべてやり直すこと。やり直していてもどうしても解けないものがあれば、教科書や参考書、ノートをもう一回ゆっくり読み直すこと。それでもわからなければ印をつけておき、次の授業のときに先生に質問すること。学校の先生に質問しにくければ、開倫塾などの学習塾や予備校などの先生に質問すること。

(5)このようにしてその日の授業の内容を十分「理解」した上で、次の授業での確認テストの前までに行うべきことは何か。それは、「定着のための3大練習」でその日の授業内容をスミからスミまで正確に身につけてしまうことです。

- (6)「確認テスト」の内容は、「〇〇とは何ですか」、「～を何といいますか」など言葉の意味(定義)に関する問題や「次の計算をなさい」などの計算問題、「別の言い方にするとどうなりますか」などの書き換え問題など、出題傾向は大体いつも同じ場合が多いので、基本的なことを「理解」し、その内容を「定着」するだけで十分です。
- (7)コツコツ準備さえすれば必ず 100 点満点が取れるのが、授業開始直後に行われる前回の授業内容についての「確認テスト」です。
- (8)このような形で、学校で先生が毎回の授業ごとに授業内容についての「確認テスト」を行ってくださるのには理由があります。それは、今私が御説明したような勉強を次の授業までにしていたほうが、授業内容をより深く「理解」し、「理解」した内容を「定着」することになるからです。前回の授業をよく「理解」し、その内容を「定着」していれば、次の授業の内容が「理解」できる可能性がとて大きくなるからです。

《学校の単元テストや学校の定期テストで100点を取るには》

Q : 「学校の単元テスト」や「学校の定期テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいのですか。

A : (1)「単元テスト」というのは、学校の教科書の「章」が終了するごとに行われるテストであることが多いので、そのような意味での「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数を取る方法をお話します。英語など語学の場合は、「課」が終了するごとに行われるテストと考えてくださいね。

(2)この「単元テスト」の勉強の仕方は、試験範囲が予め示されて行われる学校の「定期テスト」の勉強の仕方とかなり重なりますので、一緒に説明をします。

(3)「単元テスト」でよい点数を取る方法は、「学習の 3 段階理論」を活用して勉強すればあまり難しくありません。今までのお話と同じようなものになりますが、我慢して一語一語ゆっくり読んでくださいね。

(4)「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数、具体的には「100 点満点を取る」にはコツがあります。これは、小学校や中学校だけではなく高校でも、また、皆様のほぼ全員が高校卒業後に進学なさる「大学」や「短期大学」「専門学校」でも「単元テスト」や「定期テスト」がありますので、そのときにも役に立ちます。世の中のありとあらゆる試験、例えば、国家試験や資格試験、就職試験でも役に立ちますよ。今からそれをお話します。しっかり読んで参考にしてくださいね。

(5)「単元テスト」や「定期テスト」は、出題される教材と出題の範囲が明確に決まっています。この教科書やこの副教材、この問題集の「〇〇ページから△△ページ」までと予め明確に示されるのが、「単元テスト」や「定期テスト」の特色です。

(6)「応用問題」として決まったもの以外から出題される場合もありますが、出題者・作問者である先生方も、予め示された教材や範囲を十分に身につけていれば解答できるものを問題として作問し出題することがプロの教師と考えていますので、「出題される教材」と「授業で配付されたプリント」「授業中のノート」を正確に「理解」し、「定着」させておけばよいと考えます。

(7)今、「授業で配付されたプリント」と「授業中のノート」の大切さをお示ししました。「単元テスト」や「定期テスト」には、印刷された「教科書」や「副教材」「問題集」だけでなく、「授業中に先生が使用したプリント」と授業中に先生が説明したり教えてくださった内容をメモしてある「授業中のノート」からも出題されます。

《授業で配付されたプリントも大事》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」対策として、先生が授業中に配付してくださった「プリント」教材も大事なのですね。

A：(1)その通りです。ですから、「授業中に先生が配付し、授業で使用したプリント」は必ず保存しておくことが大事です。普通、「プリント」には書き込み用の空いているスペースがあり、授業中に空いているスペースに必要なことを書き込ませながら授業を進める場合が多いようです。ですから、プリントに書き込みながら授業を進める授業の場合には、必要なことはどんどん書き込みましょう。

(2)もし、授業中に書き込むことができなかった場合は、授業終了直後に必ず自分の力で必要なことを書き込んでおくことが大事です。どうしても何を書き込んでよいかわからないときには、友人によくお願いして、プリントの空欄を書き写させてもらいましょう。友人にお願いすることが難しければ、学校の先生に質問して教えてもらうこと。学校の先生に教えてもらうことが難しければ、開倫塾の先生に質問してくださいね。

(3)なぜこんなにまでして授業で使ったプリントの空欄をなくしておくことが大切かというと、プリントを授業中に使用する先生は、「単元テスト」や「定期テスト」にプリントから出題する場合がありますからです。

(4)プリントは1枚も紛失することなく、配付された順番通りにきちんとファイルして、保存しておくことも大切です。

(5)どこにどのように保存するかを、よく考えて自分で決める。決めたことは実行すること。大切なものは絶対になくさないのも大切な能力です。

《授業中に取ったノートも大事》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」対策として、授業中に取ったノートの内容も大切なのですね。

A：(1)はい。その通りです。授業中に取ったノートも「単元テスト」や「定期テスト」のときに驚くほど役に立ちます。

(2)「ノートの取り方」についてはいろいろな考え方があるでしょうが、私は、大切な学校での授業なので、授業中は先生のお話になったことはすべてノートに書きとどめることが、後々先生の授業を振り返るときにとっても役に立つと信じて疑いません。

(3)学校の先生と呼ばれる方から教えていただくときはもちろんのこと、人様から自分の知らないものごとを教えていただくときには、その方のお許しをいただいて、ずっとメモを、ノートを取り続ける。そのメモやノートは、後でその先生や教えてくださった方を思い出しながら、振り返るときにとっても役に立つ。これが私の実感です。手が痛くなるまでメモを取り続ける、ノートを取り続けることは、私にとってとても大切なことに思われます。

(4)小学校よりは中学校、高校よりは大学や短期大学、専門学校、大学や短期大学、専門学校よりは大学院、学校での勉強や生活よりは社会に出て仕事や社会的な活動、実際の生活をするときのほうが、自分自身の力で必要なことをノートやメモに取る必要性が大きいときが多いと私には思えます。

(5)授業中にノートを取り続けることは、「単元テスト」や「定期テスト」の出題範囲について、学校の先生の授業を振り返り、思い出し、「理解」を深めるにはとても役に立ちます。

(6)ただ、大切なのは、自分が後々勉強しやすいようにノートを整理することです。「ノート整理」ができることは大事な能力ですね。この「ノート整理」が上手な人は「学力」が極めて高い、仕事もよくできるといわれるほど、「ノート整理」は大切です。

《ノート整理のコツとは》

Q：ノート整理のコツは何ですか。

A：(1)「定着」のときにもお話ししましたが、教えていただいたときの様子が思い出しやすいように、自分で読みやすいように、後で自分で勉強しやすいように、覚えやすいように、「定着」しやすいように工夫して「整理」することです。

(2)項目分けをしたり、線で囲んだり、マーカーを引いたり、図解したり、後で調べたことを書き込んだり、ページをつけたりと、やることはたくさんあります。

(3)できるだけ見やすい、また、美しいノートを自分自身の手で作り上げ、せっかく作り上げたノートですから、先生から授業で教えて頂いたことを十分「理解」した上で、スミからスミまで覚える、身につけることが、「単元テスト」や「定期テスト」でよい点数、100点を取るの

に役立ちます。

《単元テストや定期テストで100点を取るための教科書の勉強方法とは》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、教科書はどのように勉強したらよいのですか。

A：(1)教科書の出題範囲(〇〇ページから〇〇ページまで)に出ていることはすみからすみまで一語残らず、その意味、内容を「理解」した上で、すみからすみまで正確に身につけること、「定着」させることです。

(2)教科書は本文だけでなく、欄外の「注」や「説明」として「小さな文字」で書いてあることも見逃すことなく、すべてその「意味」や「内容」を「理解」する。

(3)その後「音読練習」と「書き取り練習」を最低でも6回以上は繰り返して、すべて「正確に身につける」(「定着」させる)こと。この6回以上が大事です。

《問題集の勉強の仕方とは》

Q：「単元テスト」や「定期テスト」で100点を取るために、「教科書」の中にある「計算や問題」と、学校で使用している「問題集」の「計算や問題」はどのように勉強したらよいですか。

A：(1)「試験範囲」のものは、「全問」すべて自分の力でもう1回ノートに書き直すことが大事です。

(2)できない問題がなぜできないか、その原因を自分で分析する。「いくら考えてもできない問題」か、「うっかりミス(ケアレスミス)でできなかった問題」かに分ける。これを「誤答分析」といいます。

(3)いくら考えてもできないのは「理解」不足かもしれないので、もう一度、「教科書」や「参考書」だけではなく、「辞書」まで活用して、「そうか、これはこのようなことだったのか」と「うんなるほど」と「納得できる」まで勉強する。どうしてもわからなければ、学校や開倫塾の先生に質問することが、ここでも大事。

(4)よく「理解」していてもうっかりミス、ケアレスミスした計算や問題は、「うろ覚え」「練習不足」が原因なので、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」でしっかり身につける。

(5)このようにして、教科書に出ているすべての「計算や問題」、学校で使用している問題集の「計算や問題」がすべて「理解」できたら、テスト範囲について前から順に「計算・問題練習」を6回以上繰り返す。6回以上が大事です。

(6)これで、「単元テスト」と「定期テスト」でよい点数、100点満点が取れます。

《実技4科の定期テストで100点満点を取るには》

Q：全科目、この方法でよいのですか。

A：(1)もちろんです。

(2)音楽や技術・家庭、保健体育、美術などは、「単元テスト」や「定期テスト」のテスト範囲の内容について実際に演奏したり、ものをつくったり、身体を動かしたり、創作をすることも大切と考えます。

(3)楽器が演奏できる人は、テスト範囲の曲を音楽の教科書を見ながら自分で少しでも演奏してみましよう。教科書の楽譜を見て楽器が演奏できたり、歌を歌えることは素晴らしいことです。

(4)技術・家庭の教科書に出てくるものも、自分でどんどん作ってみましよう。家の人や友達と一緒にやってみましよう。生活する上で役に立ちますよ。

(5)保健体育ほど、健康な生活をするために、また、スポーツを身につける上で役に立つものはありません。すみからすみまで全部「理解」した上でしっかり身につけましよう。

(6)美術の教科書に基づく創作活動や鑑賞活動は、人生を豊かに幅広くします。どんどんやってみましよう。

(7)これらの科目も積極的に取り組み、「理解」→「定着」の上でテスト対策をバッチリすれば、「単元テスト」や「定期テスト」で全科目ともよい点数、100点満点が取れます。頑張ってくださいね。

《学年末テストでよい点数を取るには》

Q：学校の「定期テスト」の最後には、「学年末テスト」があります。「学年末テスト」ではどのようにしてよい点数、できれば100点満点を取ったらよいのですか。

A：(1)「定期テスト」の最後として「学年末テスト」は何のためにあるのか、もっといえば、テストは何のためにあるのか、たまにはじっくりと腰を落ち着けてよく考えてみましよう。

(2)私は、「学年末テスト」は1年間の勉強を「定着」させるためにあると考えます。

(3)「学年末テスト」のテスト範囲は、「学年末テスト」の直前の「定期テスト」の後に勉強した範囲に限られず、その学年で4月から今までに勉強した範囲であることが多いようです。

(4)何のために1年分の範囲で「学年末テスト」が出題されるかといえば、この「学年末テスト」の準備の勉強を通じて、その学年で勉強したことのすべてを「理解」し、しっかり「定着」、身につけた上で、次の学年に進級するためといえます。

(5)このように、すべての「テスト」はそれまでの勉強をもう一度よく「理解」し、それを「定着」させるためにあると考えることが「ポジティブ・シンキング」、テストについての積極的な考え方と思います。

- (6) 学校で学ぶ者として、「テスト」は避けられません。「テスト」を受けずに学校生活を送ることはできないのですから、「テスト」から逃げるのではなく、「テスト」を積極的に活用して学力をバッチリ身につけることを私はお勧めします。
- (7) 「学年末テスト」に向けてしっかり勉強する。特に、中学2年生、高校2年生は4月からその学校の最終学年となり、受験勉強に突入するのですから、中学生も高校生も1、2年生の内容は「学年末テスト」までにしっかり「理解」し、「定着」させる。3年生になったら、1、2年生の復習をしなくても済むようにしておくことが大事です。
- (8) 中学生も高校生も1年生、2年生の内容も入学試験に出題されるのですから、それらの内容については入学試験に合格するまでレベルを上げておきましょう。遠慮しないで、1、2年の範囲についても入試問題に挑戦することも大事です。

《「学校の実力テスト」でよい点を取るには》

Q：「学校の実力テスト」でよい点数を取るにはどうしたらよいですか。

- A：(1) 学校の実力の特色は、テスト範囲はや出題される教材が「単元テスト」や「定期テスト」のように特定されていないということです。
- (2) 但し、特定されていないとはいっても学校で行うテストですから授業で教えていない範囲からは出題されることは少ないでしょうし、学校の教科書や教材、問題集のレベルを超えた難しい内容が出題されることも少ないと思われます。
- (3) ですから、「学校の実力テスト」は今までに授業で勉強した範囲から出題され、そのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルと考えてよいと私は思います。
- (4) そう考えれば、「学校の実力テスト」の実施の日までにやることは自ずと決まってきますね。
その学校に入学してから今までに勉強してきたことを試験範囲と考えればわかりやすいと思います。今1年生なら4月から今までに勉強してきたところ、2年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところ、3年生なら1年生の4月から今までに勉強してきたところを実力テストの範囲と考える。
- (5) 実力テストのレベルは学校の教科書や教材、問題集のレベルなので、用いるべきは、学校の教科書、教材、問題集と授業中のノートとする。
- (6) 以上をテスト範囲、用いる教材として、出題科目について、今日からテストの日まで1～2か月かけて最大の準備をしてください。必ずよい点数が取れます。
- (7) 「実力テスト」は、「確認テスト」や「単元テスト」、「定期テスト」の内容ばかりです。その復習だと思ってどんどん勉強してみましょう。
- (8) つまり……

- ①「確認テスト」で勉強し足りなかったところを「単元テスト」の勉強で補い完全にする。
- ②「単元テスト」で勉強し足りなかったところを「定期テスト」の勉強で補い完全にする。
- ③「定期テスト」で勉強し足りなかったところを「学年末テスト」の勉強で補い完全にする。
- ④「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、この「実力テスト」の勉強で補い完全にする。

(9)この先のお話をするならば、「学年末テスト」で勉強し足りなかったところを、「受験学年の模擬テスト」で補い完全にする。

(10)そして、理想をいえば、「模擬テスト」で足りなかった勉強を、本番の「入学試験」までに補い完全にして入試に臨む。

(11)「入学試験」までに足りなかった勉強を、「希望校の入学式」までに補い完全にしてから入学する。

(12)学校の「実力テスト」を活用して、このような流れ(Stream ストリーム)を1日も早く作り出すことが大切かと思います。

《「学校の実力テスト」が終わったあとは》

Q:「学校の実力テスト」が終わったあとは、どのようにしたらよいのでしょうか。

A:すべてのテストと同じように、もう一度テスト問題をやり直してくださいね。

Q:「学校の実力テスト」の準備として「予想問題」のようなものをやったほうがよいのでしょうか。

A:(1)学校の教科書の単元の最後や教科書の最後に出ている単元、その学年のまとめ問題はお勧めです。学校の問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めです。

(2)開倫塾のテキストや問題集の各単元の最後のまとめ問題やその学年のまとめ問題もお勧めです。

(3)本屋さんで売っている各学年や単元のまとめ教材、まとめ問題集も役に立ちます。

(4)本格的な受験勉強に入る前は、この「実力テスト」を活用して、今の学年までの勉強を1科目でも多く完成の域にまで近づけておくことを私は強くお勧めします。

《模擬試験とは》

Q:模擬試験は何のためにあるのですか。模擬試験は入学試験に役に立つのですか。

A:(1)入学試験までに1回も予行練習のための模擬試験を受けないで本番の入学試験をいきなり受けるよりは、入試の1~2年ぐらい前から計画的に模擬試験を受けることを私はお勧めします。

(2)「模擬試験」での勉強を通して入学試験までに合格できるだけの実力を備えることがよいと

私は考えます。

- (3)あらゆるテストや試験には教育的な意味があります。この入学試験の準備のための「模擬試験」にも意味がありますので、まずは「模擬試験」の意味を知り、よく「理解」することです。よく「理解」した上で、「模擬試験」を自分の学力向上のために積極的に御活用なさることが大事と考えます。
- (4)それでは、本番の入学試験の前に、受験学年になると皆が受験する偏差値の出る「模擬試験」の活用の仕方をお話いたします。
- (5)「模擬試験」では、試験が終了するたびに偏差値が出されます。それは何のためかといえば、進学を希望する学校への合格可能性を知るためといえます。その学校に合格できるだけの偏差値がいつも取れていれば合格可能性は高く、そうでなければ低いといえます。だから、受験生は、自分が進学を希望する学校に合格できるだけの偏差値を取ることを目指して勉強に励むのです。
- (6)「模擬試験」の偏差値は高ければ高いほど入学試験に合格できる学校は多いといえます。進学する学校を選ぶときの選択肢が増えるといえます。学校選びも人生の選択肢の1つだと考えれば、人生の選択肢を増やしたければ模擬試験でよい偏差値を取ることは欠かせないともいえます。
- (7)それでは「模擬試験」は何のためにあるかと問われれば、入学試験までに自分の希望する学校に合格するだけの学力をしっかりと身につけるためにあると私は考えます。偏差値は初めは余りよくなくても、模擬試験で得意科目や得意分野、不得意科目や不得意分野を自分自身でよく知る。つまり、「自分の学力のようすをよく自覚」して、得意なところはどんどん伸ばす。不得意なところは基礎からやり直す。受験生としての自覚を持って、希望する学校に合格するだけの実力を確保することが大切です。
- (8)このような方法で、模擬試験を通じて自分の行きたい学校に合格するだけの実力を備えることは、希望校の入学試験の合格に直結しますので、模擬試験と入学試験は大いに関係があるといえます。

Q：模擬試験でよい偏差値を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1)その模擬試験のその時期に過去に出題された問題、いわゆる「過去問」5年以上を実際に解いてみる、じっくり研究してみることをお勧めします。

それも、1回だけではなく、同じ「過去問」を5回～6回以上やり直してやることをお勧めします。この方法が最も効果的です。

(2)模擬試験は年間スケジュールが予め決まっていますので、1つ1つの模擬試験の日程を入手

し、いつあるのかをまずは「理解」。日程表をコンビニ等で縮小コピーして「手帳」や「ノート」、机の前にはりつけること。その日程表をいつも見ながら作戦を立てることが大事です。
(3)できれば、1つの模試が終了したその直後、つまり、その日から次の模試の準備をすることをお勧めします。

Q：模擬試験が終わった日の過ごし方を教えてください。

A：(1)模試が終わったら、その日のうちに模試の解答集を用いて1問1問正解したかをチェック。
なぜこの問題ができて、その問題ができなかったかを自分の手で確認してください。
(2)解答できなかつたり、解答はしたが間違えた問題については、なぜその問題に手が付けられなかったのか、解答はしたが間違えたのかの原因を自分の力でよく考える。これを「誤答分析」といいます。
(3)よく考えて、その原因が「理解」不足だったら、教科書や参考書、授業中に取ったノート、辞書などを活用して「うんなるほど」と「理解」できるまで調べる。それでもわからなかったら、学校や開倫塾の先生に質問することが大切です。
(4)「理解」はしていたが細かいところまで正確に覚えていない、正確に書けない、計算や問題練習が不足していたなどの理由で間違えた場合には、「定着のための3大練習」を繰り返す。
(5)ここまで自分で勉強してから、もう一度、その日にやった模擬試験の問題を全部やり直すこと。そして、二度と同じ誤りを繰り返さないまでにすること。このように「誤答分析」を活用することが大事です。

Q：模擬試験の「過去問」5年分以上も同じようにやればよいのですか。

A：(1)その通りです。次の模擬試験までに、まずは「過去問」を1年分行い「誤答分析」をする。
科目別・分野別に「理解」不足、「定着」不足のところを探し、それを補うための勉強を自分でする。
(2)それが終わったら、同じ問題をもう一回やってみる。
(3)次に、もう1年分を同じようにやってみる。やり終えたら、その問題をもう一回やってみる。
(4)これを繰り返すと、あっという間に5～6年分を5～6回やり終えてしまいます。
(5)最後は、問題を見た瞬間にパッパッパッと条件反射で正解が出るようになります。ここまでくれば、誰でも偏差値は50、60を当然突破し、70以上にもなります。
(6)受験勉強に頭がよい、よくないは全く関係ありません。要は、やったか、やらなかったかだけです。時間とエネルギーはかかりますが、また、他にもやり方はたくさんあるでしょうが、高い偏差値が取りたかったら、例えば、このような方法でやればよい。ただ、それだけです。

(7)「模擬試験」についてもその時期に出た「問題 5 ～ 6 年分を知り尽くす」こと。「理解」できていないことは基礎から勉強し直し、しっかり「理解」する。よく身につけていない、「定着」していないところは、「定着のための 3 大練習」を徹底的に行いスミからスミまで正確に身につける。そして、同じ過ちを繰り返さないこと。

Q：入学試験で合格点を取るにはどうしたらよいですか。

A：(1)入学試験で出題された問題(過去問)を少なくとも 5 ～ 6 年分以上全部自分でやってみること。同じ問題を 5 ～ 6 回以上やり直すこと。

(2)2011 年なら今日と明日、1 月 15・16 日に行われる「大学入試センター試験」の場合は、「過去問」15 年分以上を「追試問題」を含めすべて同じ問題を各 5 ～ 6 回自分で解くことが最も有効な方法です。

大学入試センター試験対策はその年のセンター試験が終了したらすぐにスタートし、1 年間かけて行うことが望ましいと考えます。

(3)どのような入学試験も、入試 1 年前から一瞬も気を抜くことなく一心不乱に合格に向けて「理解」→「定着」→「応用」をはかることが大事です。

(4)入学試験で合格点を取る、入学を勝ち取るにはこのようにして学力を身につけることが大切ですが、このほかにもたくさんありますので、別の機会にお伝え致します。お楽しみに。

Q：「応用」には「試験でよい点数を取る」や「合格点を取る」だけではなく、「社会で役立つ」もあるようですね。

A：はい。少し長くなりましたので、またの機会にお話させていただきます。

今回はこれでおしまい。長い文章を読んでいただき有り難うございました。

感謝